

防災だより



消防本部防災対策課 電話：72-0131

〔第54号〕

～令和8年熊本地震・避難所支援～

7月28日(火)16:27頃に熊本県熊本地方でマグニチュード7.1(暫定値)の地震が発生し、熊本県宇城市および氷川町で震度7を観測しました。愛南町では最大震度3を記録し、長い揺れを感じた場所もありました。

甚大な被害のあった熊本県には全国各地から支援が届いていますが、本町からも2人の職員が愛媛県支援チーム(第2巡目)の一員として8月9日(日)から8月13日(木)に熊本県氷川町で竜北東小学校の避難所運営を行ってきました。今後も職員派遣は継続していきます。今回は第2巡目として参加した際の活動を紹介します。写真は現地の様子です。



愛南町役場8/7(金)出発式



全壊した家屋



隙間と段差ができた学校施設



避難所運営会議



物資支給準備



物資支給



居住スペース



国土交通省給水車



散髪ボランティア



愛媛県トイレカー

～派遣職員（避難所副班長） 防災対策課 上埜主査 に聞きました～

Q 現地を見て、住民が事前に準備しておいた方が良いことは何ですか？

A 防災用品の事前準備はもちろんのこと、自分が被災した場合にどこに避難するのか考えておくことが重要です。近くの避難所なのか安全な親戚宅なのか、避難先がどのような環境なのか考えておくと、自分で準備しておくべき物が見えてくると思います。

服薬している方は、主治医と相談して、手元に持っておく薬を多めに用意する必要性もあると思います。避難所では発災から2週間が経過した頃に、服薬が必要な方から一斉に「薬が無くなりそう」と相談がありました。また、日頃から日用品を多めに買い、ローリングストックを進めてください。全国から支援物資は届きますが、日用品は欲しい方も多く、早いもの順になりがちです。

現地では古い家屋が軒並み倒壊していました。町では各種補助金を用意していますが、ご自身の安全、避難経路確保のためにも、特に**家具転倒防止・木造住宅の耐震化・ブロック塀等安全対策**を行ってください。

Q 避難所運営に携わって、課題は見つかりましたか？

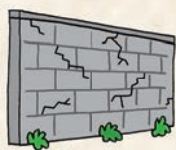
A 最も強く感じたのは、大規模災害において避難所運営を被災した行政職員だけで運営するのは不可能に近いということです。南海トラフ巨大地震が発生した場合、町職員自身も被災者です。外部との調整や支援の要請などの災害対応業務に追われ、職員は不足します。そのため、自分の地区の避難所では誰が何を担うのか、普段から話し合っておく必要があります。

また、避難所には「ラップポントイレ」という汚物が入った袋を熱で圧着し、匂いや衛生面に配慮したトイレもありましたが、避難されている方は使用方法が分からず、苦慮されていました。そこでトイレ凝固剤やラップポントイレの使用方を今後、更に啓発していく活動も重要だと感じました。

自宅の耐震性を強化するために

*ブロック塀等安全対策

事業費補助金



*木造住宅 耐震診断技術者派遣事業

*木造住宅 耐震改修設計補助金

*木造住宅 耐震改修工事補助金 等



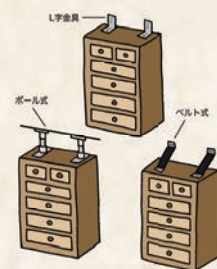
家庭の防災力を強化するために

*緊急避難時持出用品（非常持出袋）セット

購入事業費補助金

*家具転倒防止等対策費補助金

*防災用品購入補助金



補助金についての詳しい内容は、防災対策課までお問い合わせください。トイレ凝固剤・ラップポントイレの使用法については、ぼうさい出前講座でも紹介できます。

